



第六号



発行所

〒370-0131
 伊勢崎市境米岡二七九-二
 浄土真宗本願寺派弘教寺内
 寺報編集部責任者 玉田 忠
 電話0二七0(七四)0五七三

「千の風になつて」に思う

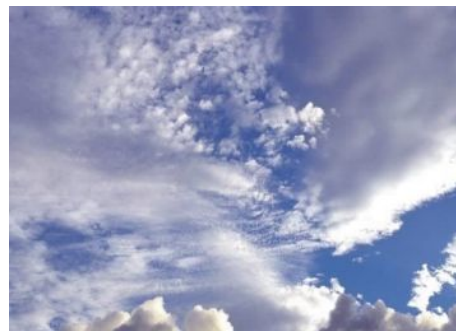
弘教寺住職 中山 英昭

昨年末の紅白歌合戦以来「千の風になつて」という歌が大ヒットを続けている。もともと作者不詳の詩で、ニューヨークでの9・11の追悼の折にも読まれた有名な詩でもある。

シンガーソングライターの新井満さんが、日本語訳と作曲をし、秋川雅史さんが紅白で歌つて、日本中に知られることになった。

「私のお墓の前で泣かないで下さい・・・」で始まる歌が、どうしてこのように日本社会で広く受け入れられたのか不思議に思う。日本ではともすれば「死」に関することはタブー視され、語らないことが美德とされているそんな中、「千の風になつて」がどうしてヒットを続けているのかを一考してみたい。

先日、旧友数人と会食をした。その際にもその中の一人が、「お墓にいないんなら、どこにいるんだい。」と母親が悩んでいると笑いながら話していた。日本の社会通念では、亡き人は「どうぞ安らかにお眠り下さい。」の言葉で締めくくられるように、亡き人が、災いなどをもたらすことのないよう、慰霊、



鎮魂のための儀式をする。それは真宗とは意を異にするが、葬儀に他ならない。だからこそ真剣に営むのであろう。その上で、最後は墓で安らかに眠つてほしいと願うのである。

「千の風になつて」の詩では、千の風になり、光になり、雪になり、鳥になり、星となつて見守つていることが語られている。

私はそこに死に往(ゆ)く人も、残された家族も共に救われている世界、安らぐ世界が展開されているように思うのである。

先日、飛騨高山の中村富子先生から「父は空、母は大地」という一八八五年にインディアンの酋長シアトルという方が、米大統領フランクリン・ピアスに宛てた手紙を小冊子にしたものを頂戴した。その中に、「わたしが立つているこの大地は私の祖父や祖母の灰からできている／大地はわたしたちの命によつて豊かなのだ」「あらゆるものが／つながつている／わたしたちが／この命の織物を織つ

たのではない／わたしたちは／その中の一本の糸にすぎない」という一節がでてくる。

「千の風になつて」も、これらの一節も、お釈迦様の示された縁起の法そのものであるように思われる。

二月末日、門徒のOさんが、西群馬病院で往生された。ガンを患うまでは、日々聞法に熱心であった。十六年前に、奥さんを亡くしてから、苦勞をかけたという慙愧(ざんき)の念もあり、墓参りと聞法がOさんの日課となつた。

二月初めに、ガンの肺への転移を機に、市内の病院から、希望して緩和病棟のある西群馬病院へ転院した。見舞つた折に、良寛の言葉「われながら うれしくもあるか 弥陀仏のみますみくにに ゆくとおもへば」を額にし、持参した。とても喜んで飾ってくれたという。葬儀のとき、二十数人の遺族の皆さんの念仏の声の大きかったことが、印象深い。Oさんが仏となり、無量の光となつて、照らして下さつていることを感じとつていようであつた。

「千の風になつて」は、送る側も、送られる側も、死を超えて、安心や安らぎを、私達に与えてくれる。私達の世界でいえば、お念仏の世界であろう。その安心の世界を、お互いに持ちたいものである。

特集

◆本山御正忌法要参拝◆

京都の本山の御正忌報恩講は、毎年親鸞聖人のご命日に聖人のご苦勞をしのび、阿弥陀如来のお救いをいただくことを、あらためて心に深く味あわせていただく法要で、一月九日から十六日までの八日間勤められています。

これに先立つて、各地の別院やお寺では、十一月、十二月に営まれる浄土真宗の一番大切な法要です。毎年、十一月に築地の別院に弘教寺から数名の代表が参拝し、寺では十二月に二日間の法要を行っています。

本年は、京都の本山で行われる御正忌法要にも、三十一名がバス、新幹線を乗り継いで参拝しました。

◆本山の御正忌報恩講◆



晨朝（じんじょう）参拝

晨朝参拝とは、日の出と共に行われる法要で、十四日の午前六時、まだ暗い空に、残月が総御堂の大屋根を照らしだしているなか、弘教寺から参加した私達は、一層厳肅な気持ちにさせられました。総御堂の階段を上ると、広間はすでに人で埋まり、私達は入り口近くに座を占めました。人々のざわめきの中で、ひときわ声高に、「南無阿弥陀仏」を唱えている一団は、安芸門徒の人たちだと名乗っていました。

外陣の前には、二百名近い僧侶が四列に並び、六時三十分から晨朝のお勤めがはじまりました。堂内の各所にテレビモニターがあり、ご門様のお勤めの全てが、参拝者のどこからでも良く見られるように、配慮されていたのは嬉しく思いました。「総御堂は冷房がしてあるのか？」と囁かれているほど寒く、厳肅な儀式を一層印象深いものにしていました。法要のあと、御影堂を背景に記念写真をとりました。

国宝・書院対面所のお齋（とき）

昼食は、本山のお齋接待に参加。国宝・書院「鴻の間」は、百六十二畳に緋毛氈が敷かれ、五列に並んだ私達一人ひとりに、精進料理の膳が、奉仕の方々によつて運ばれてきて、お齋の接待をうけました。

上段の間と下段の間のあいだの欄間（らんま）に、「雲中飛鴻」（うんちゅうひこう）

と名付けられている鴻の鳥の透かし彫りがあり「鴻の間」と呼ばれています。

上段の間中央が床の間、左に帳台構え、右に違い棚付書院の折上格天井（おりあげごうてんじょう）、周囲は渡辺了庵筆の金色極彩色の襖絵に圧倒される想いでした。



（注・写真①②は西本願寺ホームページから抜粋）

速夜法要と御俗姓拝読

お齋のあと再び本堂で、速夜法要が営まれた。新門様の御俗姓拝読（蓮如上人がお書きになった、親鸞聖人の御生涯を述べられた後、報恩講における、門徒の心得をとかれたもの）があり、新門様の緋の衣が、一層清しく見受けられました。

ご本山の御正忌報恩講は貴重な体験であり、参拝出来て、本当に意義深いものでした。

合掌（玉田）

ご旧蹟を訪ねるシリーズ

I

性信上人ゆかりの地を訪ねる

信という法名をたまわった。生まれた。十九歳の年、聖人に預けられ、性

さる一月二十二日、ご住職、坊守さん、吉田さん、玉田さん、橋本さんと共に、県指定の重要文化財の、親鸞聖人の一番目の弟子である、性信上人の木造坐像が安置されている、群馬県の東の端、板倉町を訪れた。宝福寺の総代さんの案内で、寺の一隅にある、お堂で性信上人の坐像と対面をした。このお堂は度々盗難の被害にあい、扉には四ツも大きな鍵がかけられ、厳重に管理されていた。坐像の製作年は鎌倉中期である。性信上人は、文治三年(一一八七年)十一月十九日常陸の鹿島神宮の大官司大中原宗基の長男基久として



性信上人の木造坐像

性信上人は聖人の第一番目の弟子ということ、越後に配流されたとき、聖人と一緒に配所に赴いたという説がある。だとすると、赦された聖人が京都に帰らず関東にこられたのは、性信上人の勧誘があつたのか

もしれない。常陸の国を目指す途中、板倉の地に四く五日逗留された。

聖人の妻、恵信尼公のお手紙では、聖人が人びとの飢饉の救済を発願して『浄土三部経』を千回読もうとしたが、「仏の御名のほかに何の

不足があつて一途に経を読もうとするのか、自らの『信』を軽んじる行為に走つた自分を恥じ、ただ念仏によつて救われることを一人でも多くの人に伝えることが、人々に真の救済になるだろう」と思い返し、読経を中止したとある。この時に聖人は、お念仏の何たるかに目ざめられたのであろう。

私達は、宝福寺を辞した後、町の教育委員会の宮田さんの案内で「水塚」「雷神神社」等を巡り、昼食は名物の「なままずの天麩羅」に舌鼓をうち、板倉町を後にした。

(西)



宝福寺内のお堂

良く出来た！ お念珠作り

二月二十日、ここ何日かの暖かさは何処へやら、「寒いですね！ 冷たいですね！」と挨拶が飛び交う朝、昨年西蓮寺にて苦勞の末

できたお念珠作りの教訓を生かし、十日程前役員の方々が集まり、より早くキレイに仕上がる方法を見つけだしての本番です。

まず、坊守さんのお声掛けでお念珠セットの確認と、一粒でも落とすと探すのが困難なため、セット全てを箱の中に空けるように指示がありました。続いて紐通し。一粒一粒通していく皆さんの笑顔が楽しそう。最も難所の親玉通しでは先程迄の笑顔が消え、真剣そのもの。針金、縫糸、紐の先を斜めに切つて工夫をし、先端が出たときの「出た！」と云う安堵の声に、和やかな空気がひろがります。編み方も大変戸惑いましたが、手にかけてみると、やっぱり「良く出来た！」とまたあちこちに満面の笑顔。一生懸命頑張つて作つたお念珠です。

阿弥陀様をお参りする際に、是非お持ちいただきたいものです。お念珠作りを通して皆様と一緒に、苦勞した喜びと、感動を頂きました。ありがとうございました。

合掌(泉)

冴えかえる

心あたたか

念珠作り

泉 昌子



念珠作り風

◆報恩講公開記念コンサート◆

拍手喝さい!「フィオーレ・デュオ」

フラメンコのドレスがよくお似合いのヴァイオリン奏者藤田めぐみ先生。演奏活動と共にお弟子さんの指導にも力を入れていきます。時には力強く、時には繊細に響き渡るヴァイオリンとチェロのハーモニー。瀬越憲先生との共演は、今回も情熱のこもったすばらしいものでした。



(平成18年12月2日)

※瀬越先生のH-PI「お寺deコンサート」コーナーができました。

(坊守)

<http://romanesque.michikusa.jp/gukyoji.htm>



平成十八年度 東京教区 仏壮結成記念日研修会

二月十・十一日と熱海で開催され、弘教寺からは五名が参加し、総勢では三五〇名となり過去最多の参加者の研修となりました。仏壮活性化のために何をなすべきかと題し討論等が行われ、有意義な研修でした。

(貝塚)

◆この人◆「池田正良」さん(伊勢崎市)

大正十四年生まれ、今年八十二歳になられ、伊勢崎市東本町のお宅で、古武士のような厳しい風貌ながら、やさしい笑顔で私たちを迎えてくださいました。

昭和十九年の繰上げ徴兵検査に甲種合格。その年に通信兵として満州に従軍。半年後に終戦。シベリアの収容所で、夏でも溶けない凍土の地に天幕暮らし。食料難と寒さで沢山の人が亡くなり、二年間の抑留生活を終え、伊勢崎市に復員しました。

市内の栗豊(株)に勤めて三十年、常務取締役として会社を支え、昭和五十二年(株)豊裳苑を創業、社長・相談役として十三年間経営を担当、平成二年六十五歳で退任、伊勢崎織物の盛衰を担ってこられました。現在はご長男の家族と同居の五人暮らし、昨年、三十年勤めた弘教寺の役員を退任、その功績に対し、寺から感謝状が贈られました。壮年会の懇親会ではいつも鍋奉行を担当、周囲を暖かくつつんで下さるやさしいお人柄です。

健康の秘訣は、毎日朝六時に起床、午後は三十分から一時間のサイクリングの後、夕方からテレビを見ながらの晩酌、八時半には就寝の規則正しい生活を続けておられるとのこと。



(玉田)

◆行事予定◆ (平成19年4月~平成19年7月)

| 月別 | 弘教寺の行事予定 | 教区・群馬組の行事予定 |
|----|---------------------------|----------------------------|
| 四月 | 6日 婦人会役員会 | 10日 若宮苑花祭り法要 (群馬組ビハーラ) |
| | 11日 壮年会役員会 | |
| | 20日 婦人会例会 | 18日 群真会親睦ゴルフコンペ |
| | 29日 永代経法要 | |
| 五月 | 16日 弘教寺ゴルフコンペ(第5回) | 10日 教区仏婦連盟総会 |
| | 18日 婦人会総会 | 11日 組内会(西蓮寺) |
| | | 13日 教区仏壮連盟総会 |
| | 26日 こどもの集い | 21日 築地別院降誕会 |
| 六月 | 3日 壮年会総会 | 25日 組仏婦連盟第1回運営委員会 |
| | | 15日 組仏婦連盟総会(弘教寺) 矢崎節夫先生 |
| 七月 | 18日 婦人会例会 | |
| | 30日 壮年会10周年記念講演 山崎龍明先生 | 31日 若宮苑盂蘭盆会 (群馬組ビハーラ) |

編集後記

今年の冬は記録的な暖かさに県内で初雪の観測もない所がありますが、一方で雪がな被害もなく助かりますが、一方で雪がなくて生活に困る所もあるようです。雪の「だより」が届く頃は桜も散り春・本番となっており、暖かい縁側でご覧いただきありがとうございます。暖かい縁側でご覧いただきありがとうございます。

(H・M)